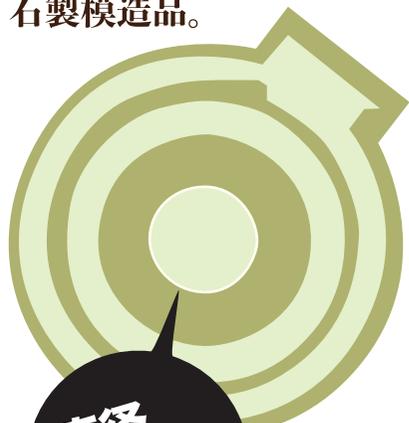


日本最大の円墳・富雄丸山古墳（奈良県）。
車塚古墳との関連を予想させる墳丘。
日下ヶ塚古墳との関連を物語る
石製模造品。



直径
109m

その
関係は？



富雄丸山古墳からみつかった
刀子形石製模造品は
日下ヶ塚古墳のものとも
よく似ている



とうす がた
刀子形石製模造品

へんけいしじゅうきょう
変形四獣鏡

サイズ：径 13.2cm
厚さ：1~1.5mm
(國學院大學博物館蔵)

石製模造品

46点のさまざまな石製模造
品がまとまってみつかった



ぼうすいしゃ
紡錘車

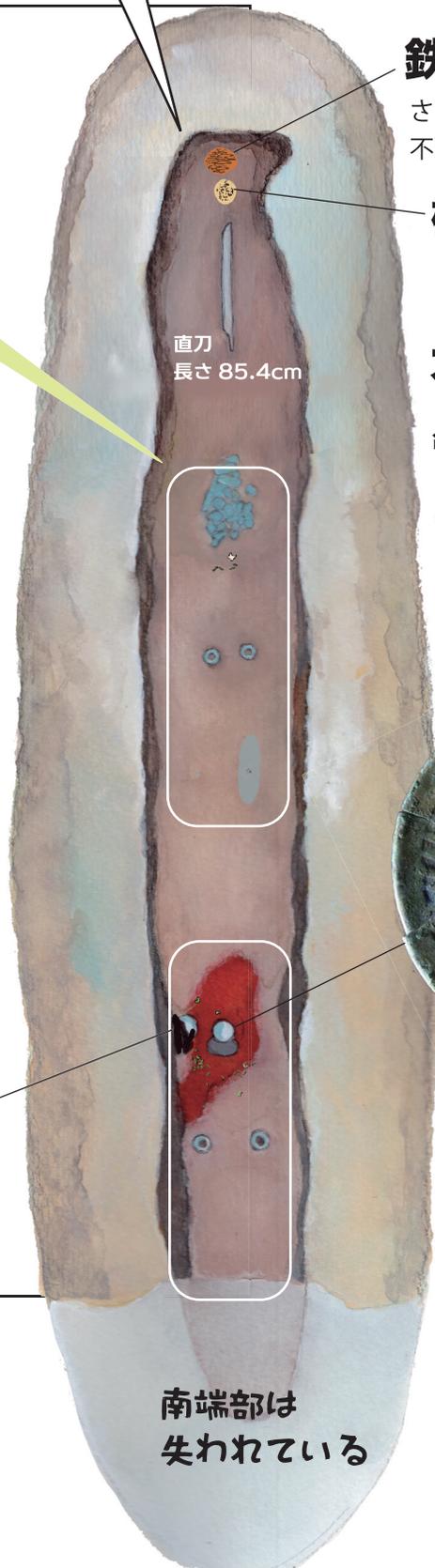


2枚の鏡はどちらも
鏡面を上にしてみつかった

2人埋葬した？



出土状況



直刀
長さ 85.4cm

鉄製品

さまざまな鉄製（鉈、刀子、鎌、
不明品など）数十片が見つかる

くし
櫛 十数枚みつける

うすだま
白玉 3989個みつける

ガラス小玉 47個
みつける

管玉 碧玉／23個 滑石／4個

いくしる
石釧 石釧は3箇
所から、合
計6個みつかった



石でつくられた
ブレスレット・石釧



ないこう かもん きょう
内行花文鏡

サイズ：径 11cm
厚さ：1~1.5mm



南端部は
失われている

『常陸鏡塚』実測図をもとに作成

日下ヶ塚古墳の粘土槨 からみつかったもの

磯浜古墳群は、茨城県大洗町に所在する姫塚古墳・五本松古墳・五本松下古墳・坊主山古墳・日下ヶ塚(常陸鏡塚)古墳・車塚古墳の6基の古墳からなる古墳群です。3世紀後半~4世紀代を中心とした約100年以上にわたり、標高25~27mの大洗の台地に古墳を造り続けました。その中で、前方後方墳から前方後円墳、大型円墳と多様な古墳の形態に変化します。当初は台地北側の那珂川・澗沼水系や、当時のムラをのぞむ場所につくっていましたが、のちに台地南東側の太平洋を見下ろす場所につくるようになりました。それは墳丘の形の変化や埴輪をたてるようになる変化とも連動しています。海上の船から見上げるランドマークとも考えられるでしょう。当時の水上交通ネットワークの発展や基点となる河口港の存在、そこを行き交うヒト・モノ・情報の集中、そしてそれらを掌握する臨海の首長としての姿が浮かび上がります。

國學院大學が所蔵している
日下ヶ塚(常陸鏡塚)古墳出土資料
(写真提供：國學院大學博物館)

ねんどかく
粘土槨とは？

石室を設けず、直接木棺を埋め
木棺の周囲を粘土で厚くつつむ
埋葬の形態。